

はじめに

『全国幹線旅客純流動調査』は、全国の幹線交通を利用した旅客流動を把握するための調査である。この調査は、従来の交通機関ごとに別々に行われる流動調査ではなく、それらを統合し、旅行する個人に着目し、旅行の実際の出発地と目的地や、旅行目的とともに、交通機関の乗り継ぎ状況を含めた旅行行動の全体像を捉えたものである。

我が国では、1990 年度（平成 2 年度）に初めて『全国幹線旅客純流動調査』が行われ、その後、1995 年度（平成 7 年度）に第 2 回、2000 年度（平成 12 年度）に第 3 回、そして 2005 年度（平成 17 年度）に第 4 回調査を実施して、幹線旅客純流動データ、純流動表を作成した。第 4 回調査では、これまでの秋期平日 1 日の実態に加え、休日（日曜日）の実態についても把握し、平日と休日における幹線旅客流動の違いなど様々な視点から幹線旅客流動の実態が明らかになるとともに、作成された都道府県間の流動データは、官公庁、地方自治体及び研究機関等他方面で、流動実態の把握・分析、需要予測モデルの構築と予測、費用便益分析等の交通政策や交通施設整備計画などの基礎となる分析に様々な観点から利用されている。

調査の実施に当たっては、森地茂政策研究大学院大学教授，運輸政策研究所長を委員長とする「第 4 回(2005 年)全国幹線旅客純流動調査委員会」のご指導を賜った。

本調査結果が、実務や研究に大いに活用され、より合理的で効率的な公共投資や国土形成計画、広域地方ブロック計画などの政策立案に役立つことを期待する。

平成 19 年 3 月
国土交通省政策統括官